

平成 18 年度診療報酬改定結果検証に係る調査
ニコチン依存症管理料算定保険医療機関における
禁煙成功率の実態調査
報 告 書

1. 目的

ニコチン依存症管理料算定医療機関の実態を把握すると共に、ニコチン依存症管理料を算定した患者に対する禁煙治療の実施状況と禁煙成功率を把握する事を目的とした。

2. 調査対象

本調査では、一次調査と二次調査を実施した。一次調査においては施設を対象とした施設調査と、ニコチン依存症管理料を算定した患者についての患者調査を実施した。二次調査では、患者調査のみ実施した。

一次調査の施設調査では、全国の保険医療機関の中で、平成18年7月1日現在にニコチン依存症管理料を届出していた施設から無作為に抽出した1,000施設を対象とした。

患者調査は、上記の調査対象施設において、平成18年6月および7月の2ヶ月間に、医療機関でニコチン依存症管理料の算定を開始した患者全員を対象とした。

二次調査の対象は、一次調査に回答した施設における、一次調査対象患者全員とした。

3. 調査方法

○一次調査

一次調査においては、施設調査と患者調査を実施した。

施設調査は、自記式調査票の郵送配布・回収とし、施設の概況および禁煙治療の状況について調査した。

患者調査についても同様に、自記式調査票の郵送配布・回収とした。治療終了3ヶ月後の状況については、医療機関が対象患者に、現在の禁煙／喫煙状況について電話調査を実施し、その結果を調査票に記載するものとした。なお、二次調査において当該患者の追跡が必要となるため、患者ごとにIDを付与することとした。

調査時期は、施設調査・患者調査ともに平成18年12月～平成19年1月とした。

○二次調査

一次調査の患者調査対象者の治療終了から5～6ヶ月目となる平成19年3月に、当該患者のその時点での禁煙／喫煙状況について、医療機関側が追跡調査を行った。調査方法は一次調査と同様、自記式調査票の郵送配布・回収とした。

一次調査対象患者のその後の禁煙／喫煙状況について、医療機関が対象患者に電話調査を実施し、その結果を調査票に記入して返送いただくものとした。

調査実施は平成19年3月とした。

4. 調査項目

一次調査、二次調査における調査項目は以下のとおりである。施設調査（様式1）では医療機関属性や禁煙治療の実施体制等を、患者調査（様式2）では患者属性や受療の状況、禁煙成功／失敗を尋ねた。様式3では、指導終了5～6ヶ月後の禁煙／喫煙の状況を尋ねた。

図表 1 調査項目

調査		項目
一次調査	施設調査 (様式1)	・ 施設区分、所在地、一日平均外来患者数、開設主体、標榜診療科 ・ ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期、禁煙治療の体制、禁煙治療に携わる職員数、患者さんに対する1回あたりの平均指導時間、ニコチン依存症管理料算定患者数
	患者調査 (様式2)	・ 性別、年齢、喫煙年数、1日あたりの喫煙本数、TDS点数、算定状況、指導終了時の喫煙・禁煙の状況、指導終了3ヶ月後の喫煙・禁煙の状況 等
二次調査 (様式3)		・ 指導終了5～6ヶ月後（平成19年3月時点）の状況

なお、禁煙治療を途中で中止した患者に、3ヶ月後、6ヶ月後の禁煙／喫煙状況を尋ねる際には、5回にわたる指導が終了していたと仮定して、その仮定の終了時から3ヶ月後の状況、および6ヶ月後の状況を尋ねた。

5. 結果

(1) 回収の状況

1) 一次調査

施設調査票は、有効回収数が 501、回収率は 50.1%であった。また、様式 2 を回答したのは 456 施設であり、記載された患者数は合計で 4,189 人であった（該当患者不在等で施設調査票のみの提出をした施設が 45 施設）。

図表 2 回収の状況（一次調査）

調査票	有効回収数	回収率
施設調査票（様式 1）	501	50.1%
様式 2 に記載された患者数（456 施設分）	4,189	—

* 様式 2 において、ニコチン依存症管理料算定要件外であるデータ、ブリンクマン指数が 200 未満もしくは TDS 点数が 5 点未満のデータ、および算定開始日が平成 18 年 6 月・7 月以外のデータを無効票として除き、有効回収数とした。

2) 二次調査

一次調査で様式 2（患者調査）の調査票を回収した 456 施設に対し、同じ調査対象患者のニコチン依存症治療終了後 5～6 ヶ月後の状況を調査するため、様式 3（二次調査票）を送付した結果、242 施設から回収することができた。様式 3 に記載された患者数は 2,225 であった。

図表 3 回収の状況（二次調査）

調査票	有効回収数	回収率
様式 3 に回答した施設数	242	53.1%
様式 3 に記載された患者数	2,225	—

* 様式 2 において、ニコチン依存症管理料算定要件外であるデータ、ブリンクマン指数が 200 未満もしくは TDS 点数が 5 点未満のデータ、および算定開始日が平成 18 年 6 月・7 月以外のデータを無効票として除き、有効回収数とした。

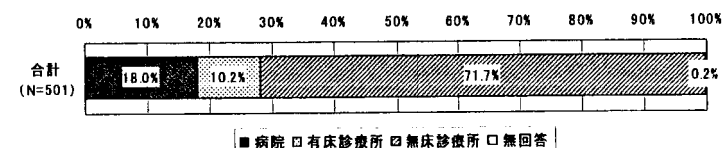
* 回収数は平成 19 年 3 月 19 日時点の数値である。

(2) 一次調査：施設の状況（平成 18 年 11 月）

1) 施設区分

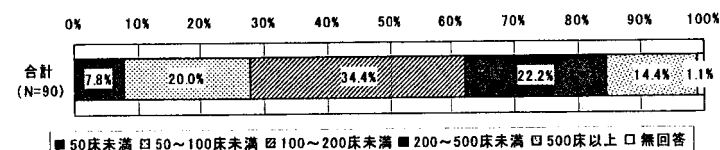
施設区分についてみると、「無床診療所」(71.7%) が最も多く、次いで「病院」(18.0%)、「有床診療所」(10.2%) であった。

図表 4 施設区分



病院における病床数についてみると、「100～200 床未満」(34.4%) が最も多く、次いで「200～500 床未満」(22.2%)、「50～100 床未満」(20.0%) であった。

図表 5 病床数（病院）



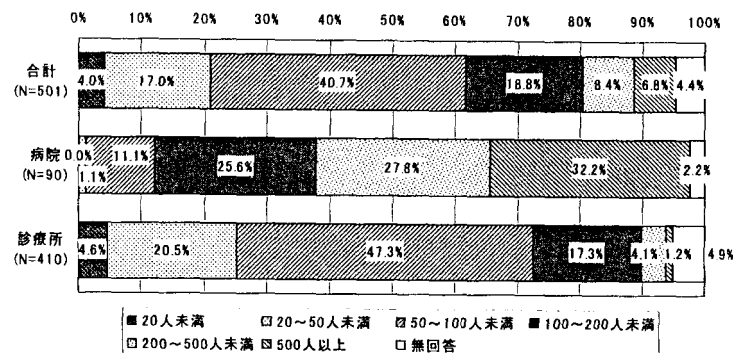
2) 1日平均外来患者数(平成18年11月)

1日平均外来患者数(平成18年11月)についてみると、医療機関全体では、「50~100人未満」(40.7%)が最も多く、次いで「100~200人未満」(18.8%)、「20~50人未満」(17.0%)であった。

医療機関種別に見ると、病院においては、「500人以上」(32.2%)が最も多く、次いで「200~500人未満」(27.8%)、「100~200人未満」(25.6%)となった。平均は461.20人(標準偏差433.08、中央値279.50)であった。

また、診療所においては、「50~100人未満」(47.3%)が最も多く、次いで「20~50人未満」(20.5%)、「100~200人未満」(17.3%)となった。平均は84.87人(標準偏差88.91、中央値65.00)であった。

図表6 1日平均外来患者数(平成18年11月)



施設区分	平均値(人)	標準偏差(人)	中央値(人)
病院	461.20	433.08	279.50
診療所	84.87	88.91	65.00

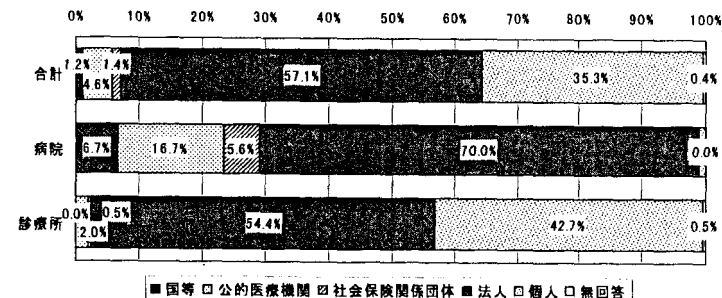
*合計(N=501)には、施設区分不明(N=1)を含む。

3) 開設主体

開設主体についてみると、全体では、「法人」(57.1%)が最も多く、次いで「個人」(35.3%)、「公的医療機関」(4.6%)であった。

病院では「法人」(70.0%)が最も多く、次いで「公的医療機関」(16.7%)であった。また、診療所においては、「法人」が54.4%、「個人」が42.7%であった。

図表7 開設主体



*合計(N=501)には、施設区分不明(N=1)を含む。

※参考：開設主体の内訳

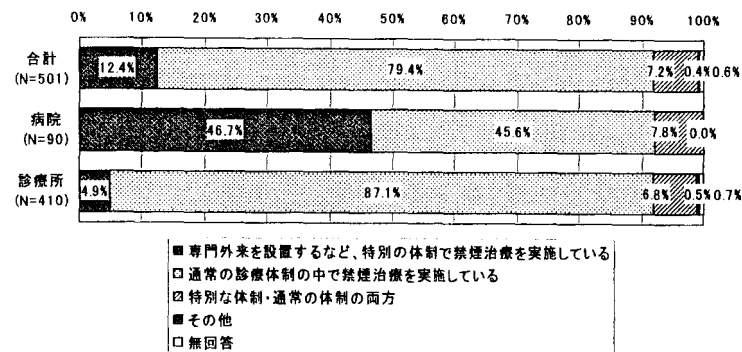
国等	厚生労働省、国立病院機構、国立大学法人、労働者健康福祉機構等
公的医療機関	都道府県、市町村、日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会等
社会保険関係団体	全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合およびその連合会、共済組合およびその連合会、国民健康保険組合等
法人	公益法人、医療法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人等
個人	

6) 禁煙治療の体制

医療機関全体では、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(79.4%)が最も多く、次いで「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(12.4%)であった。

医療機関種別にみると、病院においては、「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(46.7%)が最も多く、次いで「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(45.6%)であった。診療所においては、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(87.1%)が最も多く、次いで「特別な体制・通常の体制の両方」(6.8%)であった。

図表 11 禁煙治療の体制



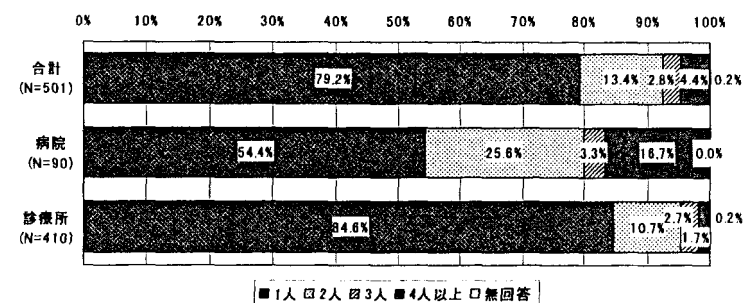
* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

7) 禁煙治療に携わる職員数

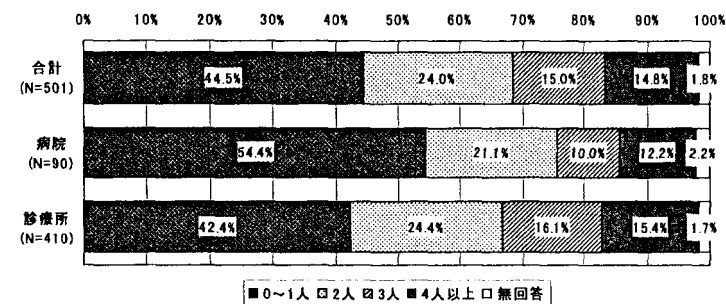
禁煙治療に携わる職員数(医師数)についてみると、病院では、「1人」(54.4%)が最も多いが、次いで「2人」(25.6%)。「4人以上」(16.7%)となっており、複数の医師が診療に携わっている場合も多かった。平均は2.31人(標準偏差2.69、中央値1.00)であった。また、診療所では、「1人」(84.6%)が最も多かった。平均は1.24人(標準偏差0.83、中央値1.00)であった。

看護師数についてみると、病院では、「0~1人」(54.4%)が最も多く、次いで「2人」(21.1%)となっていた。平均は2.23人(標準偏差2.80、中央値1.00)であった。診療所でも同様に、「0~1人」(42.4%)、「2人」(24.4%)となっていた。平均は2.37人(標準偏差2.14、中央値2.00)であった。

図表 12 禁煙治療に携わる職員数(医師数)



図表 13 禁煙治療に携わる職員数(看護師数)

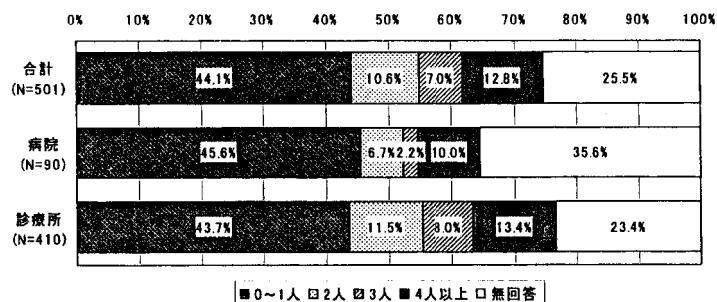


* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

禁煙治療に携わる職員数(その他の職員数)についてみると、全体では「0~1人」(44.1%)が最も多く、次いで「4人以上」(12.8%)となっていた。平均は2.37人(標準偏差7.27、中央値1.00)であった。

この傾向は医療機関種別でも同様で、病院においては、それぞれ45.6%、10.0%となっており、平均は3.24人(標準偏差15.08、中央値0.00)であった。診療所においてはそれぞれ43.7%、13.4%となっており、平均は2.21人(標準偏差4.54、中央値1.00)であった。

図表 14 禁煙治療に携わる職員数(その他の職員)



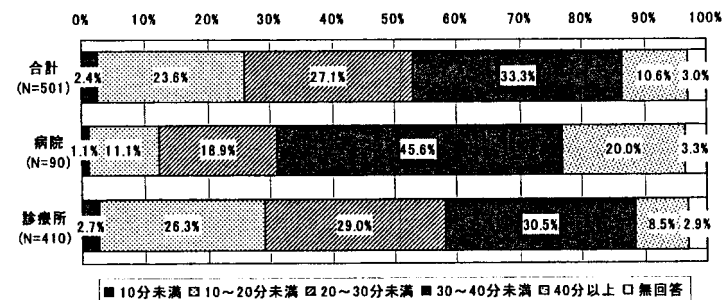
* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

8) 患者に対する1回あたりの平均指導時間

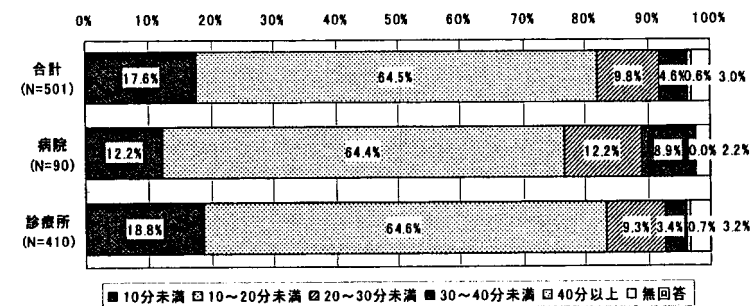
患者に対する1回あたりの平均指導時間についてみると、初回の指導では、「30~40分未満」(33.3%)が最も多く、平均24.86分(標準偏差12.33、中央値20.00)であった。医療機関別に見ると、病院の方が初回の治療に時間をかけている傾向がみられた。病院では平均29.40分(標準偏差11.33、中央値30.00)、診療所では平均23.85分(標準偏差12.32、中央値20.00)であった。

2回目以降の指導の平均指導時間についてみると、全体では「10~20分未満」(64.5%)が最も多く、平均は12.59分(標準偏差6.50、中央値10.00)であった。病院、診療所ともに同様の傾向であり、平均時間はそれぞれ14.43分(標準偏差6.78、中央値15.00)、12.14分(標準偏差6.31、中央値10.00)であった。

図表 15 患者に対する1回あたりの平均指導時間(初回の指導)



図表 16 患者に対する1回あたりの平均指導時間(2回目以降の指導)



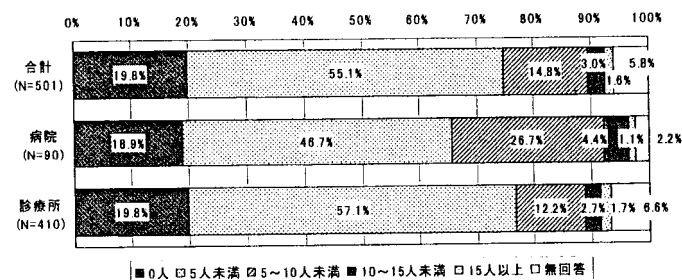
* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

9) 平成18年11月(1ヶ月)におけるニコチン依存症管理料算定患者数

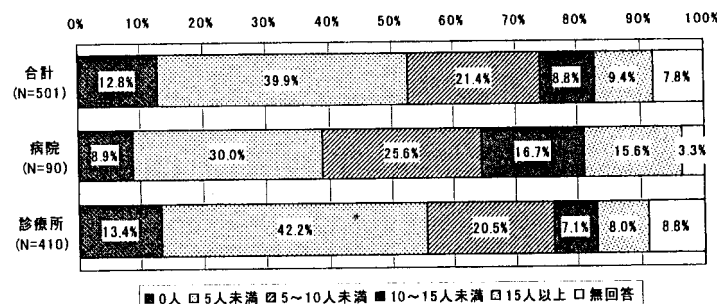
平成18年11月(1ヶ月)におけるニコチン依存症管理料算定患者数(初回の算定患者数)についてみると、全体では、「5人未満」(55.1%)が最も多く、次いで「0人」(19.8%)、「5~10人未満」(14.8%)であり、平均人数は2.92人(標準偏差3.26、中央値2.00)であった。医療機関別に平均人数をみると、病院で3.48人(標準偏差3.13、中央値3.00)、診療所で2.80人(標準偏差3.27、中央値2.00)であった。

一方、2回目以降の算定患者数についてみると、全体では、「5人未満」(39.9%)が最も多く、病院でも「5人未満」(30.0%)、診療所も「5人未満」(42.2%)と最も多かった。平均人数は、全体で5.93人(標準偏差7.42、中央値6.00)、病院で8.05人(標準偏差7.68、中央値6.00)、診療所で5.45人(標準偏差7.68、中央値3.00)であった。

図表 17 平成18年11月(1ヶ月)における、ニコチン依存症管理料算定患者数(初回の算定患者数)



図表 18 平成18年11月(1ヶ月)における、ニコチン依存症管理料算定患者数(2回目以降の算定患者数)



* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

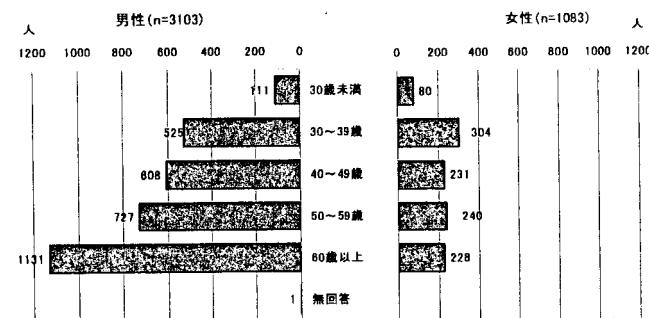
(3) 一次調査：患者の状況

1) 性別および年齢

本調査で分析対象とした患者は、男性3,103人、女性1,083人、性別不明3人で合計4,189人であった。

男性においては「60歳以上」(1,131人)が最も多く、次いで「50~59歳」(727人)、となっており、年齢が高い層が多かった。平均は53.29歳(標準偏差13.97、中央値54.00)であった。一方、女性においては「30~39歳」(304人)が最も多く、男性と比較して若年層が多い結果となった。平均は47.45歳(標準偏差13.78、中央値46.00)であった。

図表 19 性別および年齢



* 性別無回答 (N=3) を除く

2) 喫煙年数

喫煙年数についてみると、「40年以上」(29.8%)が最も多く、次いで「20~30年未満」(25.6%)となっていた。平均は30.35年(標準偏差13.03、中央値30.00)であった。

図表 20 喫煙年数

